学報
静岡福祉大学
2012.8 No.12

しずおか福祉

〒425-8611 静岡県焼津市本中根549番1 TEL.054-623-7000 FAX.054-623-7453 http://www.suw.ac.jp

精神保健福祉士合格率100％を達成

静岡県内1位！

全国レベル養成校（大学）で13位（既卒者含む）

平成23年は社会福祉士「静岡県内1位」を獲得
平成24年は、社会福祉士・精神保健福祉士のダブル合格80％まで達成！

精神保健福祉士国家試験受験者全員の合格100％を達成し、卒業生はそれぞれが専門家の道を歩み始めています。

学生たちは、夏から秋へと移り変わる時期には、表情も変化し参考書や自分でまとめたノートに書き込み、毎日のように研究室や図書室に通って仲間と共に学習を重ねました。

夏休みまでに、参考書の過去問題を一通り解き、わからないところを「国家試験対策講座」で確認し、新たな情報やキーワードには付箋をつけて自分のノートへ。

ある学生は図書室でコツコツと。ある学生は通学のバスと電車の中で、友達と問題を出し合いながら帰宅。また、参考書にたくさんの書き込みをしながら覚えることを繰り返しました。

長坂和則先生の研究室の壁には先輩たちが勉強した跡がたくさん。「見ると覚えられるんです」だそうで、随所に工夫が見られます。

卒業研究と国家試験勉強の毎日

研究室では学生達が「この法律って何年に制定だっけ？」「何年に法改正したんだっけ？」「あっ！これ覚えたぁ」「人体の構造で、生活習慣病は…」「このことってどこに載っていたかなぁ」など声が飛び交いました。

後輩からは、応援メッセージと花束が贈られ、元気をもらった四年生たちは一層勉強に力が入りました。結果、全国平均を上回る点数を獲得しての合格。

国家試験直前に皆で合格祈願のだるまに片目を書き込んで、試験に臨みました。

不得意科目を自分で理解し、「暗記するもの」「制度など理解するもの」とに分類し、印刷ミスで出た紙の裏に、サインペンで書き出す。重要なところや出題率の高いものを赤で書き、目に付くところへはる。自分たちが分かりやすいようにまとめていました。

いつの間にか研究室は、たくさんの情報がつまった貼り紙だらけに。

今年も国家試験対策講座が始まりました。受講する学生たちは真剣そのもの。

今年も国家試験対策がスタート！

5月26日（土）には「模擬試験」の実施、翌日27日（日）には「スタートアップ講座」を行い、先輩からのメッセージと学習の方法などを理解し、国家試験に向けて動き出しました。30日（水）からは、専門業者による「国家試験対策講座」が開始され、今年度は卒業生（既卒者）に向けても学習の場を提供しています。

（福祉心理学科　長坂和則）

新任紹介

本年度、新たに5名の先生が加わり、ますます教育体制が充実してきました。これまで様々な分野で活躍されてきた新任の先生方をご紹介いたします。

福祉心理学科

橋爪千恵子　教授

橋爪千恵子 先生

専　門
児童学（保育論・子ども発達論）

研　究
「子どもの移行対象に関する研究」「子どもの内的世界を探る研究」「保育における子ども理解の方法」など

担当科目
保育原理、保育者論

抱　負
これまで、家庭や保育所などで、子どもを研究対象として観察し、子どもの面白さや不思議さを研究してきました。これまでの研究と、『保育所保育指針』（厚生労働省）の中の言葉、「子どもの最善の利益」とを併せて、子どもを真に理解できる保育者を養成したいと思います。

メッセージ
「置かれた場所で咲きなさい」という言葉を聞いたことがありますか。いろいろな事情で、自分の欲しない場所（大学・仕事など）に置かれてしまうことがあります。でも、そこで不平・不満を言うのではなく、よい点を探して自分らしく生きなさい、ということです。素敵な言葉だと思いませんか。

草野智洋　講師

草野智洋 先生

専　門
臨床心理学、ロゴセラピー、ひきこもり支援

担当科目
福祉心理学、臨床心理学、心理検査実習、カウンセリング演習など

メッセージ
こんにちは。今年度からお世話になっております草野と申します。写真は昨年から回り始めた四国遍路のときのものですが、実は私は学部では宗教学という学問を学び、「人生の意味」というテーマに関心を持っています。臨床心理士としてはロゴセラピーという心理療法を専門にしています。これはクライエントが自らの人生をより意味のあるものにすることを目標とするものです。私がこれまで出会ってきたひきこもりの青年の多くは、自分の存在価値を否定し、自分の人生には何の意味もないと感じています。しかし、実はひきこもりに限らず、学生や若い社会人の中にも、物質的に豊かな社会の中で精神的な空しさを抱えて生きている人は大勢います。静岡福祉大学の学生さんも、共に学び、「自分が生きることには確かな意味と価値があるんだ」という感覚を持って前向きに生きていってもらえればと思っています。

医療福祉学科

鈴木政史　助教

鈴木政史 先生

専　門
障害福祉、ソーシャルワーク、国際社会福祉法制

担当科目
更生保護と就労支援、相談援助演習、相談援助実習指導、相談援助実習

メッセージ
私はこれまで、施設での障害を持つ人への支援や他の大学での社会福祉士養成に携わっておりました。そのなかで、クライエントや学生が成長していく過程を手助けできたことは大変うれしいものでした。学生は大学の4年間で大きく成長します。特に専門職実習や講義の中で自らが様々なことに気づき、課題を意識することでより一層伸びていくものだと思っています。

例えば「がんばれ」「元気を出して」などの言葉が相手には負担になることもります。以前、社会福祉士の相談援助実習を経験した学生が実習先で子どもに勉強を教えているときに「明日のテストがんばってね」と声をかけたところ、その子に「もう十分がんばっているんだけどな…」と言われすごく悩んだそうです。何気ない会話のやり取りですが、自分の言葉が相手に大きな影響を与えていると気づくことができた体験であり、その学生は言葉による影響や適切な言葉かけなどを大学で考察し、もっと他者を理解しよりよいソーシャルワーカーに成長したいと話していました。

静岡福祉大学でも学生が主体となって、4年間で学生自身が成長を実感できることを支援していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

健康福祉学科

新井恵子　講師

新井恵子 先生

専　門

高齢者介護、認知症

担当科目

生活支援技術、介護総合演習、介護実習

メッセージ

新井恵子と申します。よろしくお願い致します。

介護保険の導入以来老人施設の需要が急速に高まり、今までの在宅介護から施設での生活を希望される利用者様や御家族様が多く、国も毎年施設数を増やし、また各施設のベッド数を増やすなどの対策を行っていますが、まだ希望される数には追い付かないのが現状です。また、在宅での介護においても、高齢者が高齢者を介護する状況にあることや介護に要する時間が平均して6時間という現状にあります。このように高齢者の施設への入居待機者の増加や在宅介護が必要な家庭が増えている中、介護を必要とされる方の生活を支援する介護職が増えないのはどういう事なのでしょう。現在の制度のままで給料や仕事内容だけを情報に取り入れてしまい、敬遠してしまう若者が多く見受けられるのはとても残念に思います。本当の仕事の楽しさ、満足感、やりがいのある仕事ということが理解されていないのが原因のひとつです。これからの福祉向上、老人・障害者・児福祉の先端を担っていただく人材を育成するために、老人福祉・障害者福祉に対する倫理・概念・などあらゆる方向から知識を得て、相談業務や介護の技術においても様々なニーズに対応出来るプログラムを実践し、介護サービスを利用される方に信頼され、各施設で即戦力になれる福祉のプロの育成に努めたいと思います。

谷　功　講師

谷　功 先生

専　門

社会福祉学

担当科目

コミュニケーション技術、介護過程、介護の基本、介護総合演習、介護福祉実習、介護技術

メッセージ

この4月に健康福祉学科に着任いたしました谷功です。よろしくお願いいたします。これまで、特別養護老人ホームや社会福祉協議会等の介護や福祉の現場で多くのご利用者の方たちに出会い、人生の豊かさ、深さを学ばせていただきました。これらの経験を言葉で伝えることは簡単ですが、それを感じ取るためには自らがそのような経験をし、そして日頃からそれらを受けとめるために必要な感性を高めておくことが重要であると考えています。学生たちの〝感性を磨く〟、これが私の介護福祉士教育におけるテーマでもあります。

今の若い学生たちにどのようなことを伝えたら良いのか…、日々悩み格闘しておりますが、そんな道標になりそうな一例をご紹介いたします。

プロ野球選手として、またコーチとしてプロ野球界に35年間携わり、イチローや小久保等の一流選手を育て、その後59歳で高校教員として教壇に立ちながら甲子園を目指した「高畠導宏さん」が言われた〝一流のプロ野球選手になるための条件〟です。

1. 素直であること
2. 好奇心旺盛であること
3. 忍耐力がありあきらめないこと
4. 準備を怠らないこと
5. 几帳面であること
6. 気配りが出来ること
7. 夢を持ち、目標を高く設定することができること

残念ながら高畠さんは高校教員になられた翌年に、甲子園の夢叶わず病のためお亡くなりになられましたが、この残された言葉は将来、企業人、そして介護・福祉業界に携わろうとしている人たちにとっても、十分に参考となる条件であると思います。この7つの条件を学生たちが考え理解し、そして自分のものにできるよう、教科書では学ぶことができないプラスαの教材を探して自らの感性も磨きながら日々奮闘しています。

写真左より、鈴木先生、谷先生、草野先生、橋爪先生、新井先生

魅惑の講義

おもしろい講義を覗いてみよう

福祉心理学科「保育心理コース」

今年度よりスタートした、「保育心理コース」では、従来の社会福祉士、認定心理士の資格に加えて、所定の単位を修得することによって、卒業と同時に保育士の資格が取得できることになりました。

したがって「保育士と社会福祉士」、「保育士と認定心理士」という組み合わせの、ダブルライセンスが取得できることが、本学「保育心理コース」の大きな特徴です。

プレイルームで赤ちゃんとの接し方を学ぶ学生

保育士としての就職先の多くは児童福祉施設です。中でも保育所に就職する数が最も多いですが、児童養護施設や乳児院への就職もあります。

児童福祉施設では、0歳から十八歳未満の児童とかかわるため、保育士には幅広い分野の知識と技術が求められます。

たとえば、赤ちゃんが心身ともに健やかに育つよう援助するには、0歳児の心と身体の発達に関する知識やかかわり方の具体的な技術が必要です。離乳食はいつからどのような物を与えるのか、赤ちゃんの罹りやすい病気は何か、どのように予防したらよいのか、などの知識や具体的な対応の仕方を知っていなくてはなりません。

また、児童養護施設では小学生や中学生ともかかわるので、彼らの心身の発達に関する知識とともに、精神的な援助技術も必要とされます。

このような知識や技術を習得するために、「保育の本質・目的に関する科目」「保育の対象の理解に関する科目」「保育の内容・方法に関する科目」「保育の表現技術」「保育実習」などの分野に、さまざまな教科が開講されています。

具体的には「保育原理」「教育原理」「乳児保育」「少子化社会と社会福祉」「乳幼児心理学」「障がい児保育」「保育者論」「保育内容演習」「臨床心理」「保育表現技術」などがあります。

そして、大学で学んだ知識や技術を実践する科目として、「保育実習」が控えています。「保育実習」には、保育所での実習と他の児童福祉施設での実習があります。実習では観察と参加から始まり、一日の中での一部分を実践したり、最後には一日すべてを担当して実践したりします。

保育所の実習では、実際に赤ちゃんを抱っこしたり、おむつを替えたりすることもありますし、年長児と一緒にサッカーをするなど、思いっきり身体を動かして遊ぶこともあります。

保育実習を体験してくると、大学での学習に一段と励む学生が、多く見られます。自分の得意な面と不得手な部分を知って、学習の目標がより明確になるからでしょう。

また、近年は「気になる子ども」や「特別な援助や配慮の必要な子ども」に対する知識や対応が、一層求められています。このため保育士として必要な科目に加えて、社会福祉や心理学の学習がより一層必要なため、本学では他の保育士養成校よりも多くの社会福祉や心理学のカリキュラムを開講しています。

子どもの心を理解し、保護者の抱える課題にも対応できる能力をも兼ね備えた保育士こそが、現在最も求められているのです。

本学では、このような福祉と心理の知識と技術をより多く持った保育士の養成をめざしています。

医療福祉学科「現代の医療を情報で支える」

～最新のＩＣＴに対応した授業～

医療福祉学科は、静岡県内唯一の診療情報管理士の養成校として日本病院会から認定されています。

診療情報管理士という資格は、あまり聞き慣れない資格ではないかと思います。医師や看護師などの医療機関で働く専門職は、患者と接するし、それぞれの専門性を発揮しています、それに対して診療情報管理士は、病院内のカルテ室（医療情報室）等で勤務し、

医療現場を情報で支えています。

一人の患者さんが来院されると、多くの情報が発生します。必ず発生する情報は、医師が記録するカルテ（診療録）です。これには、患者さんの基本情報から診断された病名、実施した治療行為などが記録されています。また、検査などを実施した場合には、検査結果やX線のフィルムなどの情報が発生します。これらの、情報をとりまとめ、整理・管理する仕事が日常業務です。

iPadを使用して電子カルテシステムを操作する様子

また、病名などを世界統一のコードに変換し、各種の疾病の統計資料を作成します。カルテに個々に記載された情報からは患者さんの経過記録が読み取れますが、その病気全体については診療情報管理士が統計資料として整理分析することによって把握することができます。例えば、甲状腺関連の疾病は、男性一人に対して女性は四人発症しており、発病年齢は、二十歳代と三十歳代で全体の過半数を占め、次いで四十歳代、五十歳代となっており、青年から壮年に多い病気と言えるでしょう。

このように一人の患者のカルテからでは解らない情報を診療情報管理士が全体をとりまとめ、その情報を医療スタッフに提供しています。患者さんからは、診療情報管理士は、なかなか見えにくい専門職ですが、病院内では、全ての医療スタッフに関係する専門職なのです。

そのため診療情報管理士には、幅広い知識が要求されます。まずは、カルテを読む能力が必要となるので、そのための医学の学習をします。また、カルテから得た情報を国際標準コードに変換するための方法（分類法）も学びます。この授業に関しては、県内の総合病院の第一線で活躍している診療情報管理士の方を講師として招き、実務で即戦力として必要な知識なども学習できます。

また、近年では、総合病院を中心に電子カルテの導入も進んでいます。さらに、電子カルテシステムは、院内のどこからでもアクセスできるようにパソコンだけでなく、iPadなどの最新のタブレットも導入されています。

そこで、本学科では、養成校の中ではいち早く「医療情報学」などの授業の中でiPadを導入しています。iPadを使った電子カルテの操作、問診票やデジタル化されたX線写真など、実際に触れて体験して覚える、といった授業を展開しています。情報の進歩は、急激で新しい技術の導入で今までの方法が一変してしまう世界です。電子カルテの導入で診療情報管理士の仕事もカルテやX線フィルムなどの「もの」の管理から「情報」の管理へシフトしつつあります。このような、変化にも十分対応できるように、情報系の科目も基礎から学べるように配置してあります。大学において診療情報管理士を学ぶ意味は、資格取得は、重要な目標ですが、それだけではなく、将来にわたって時代の変化に対応できる診療情報管理士を育成するために、様々な科目が学べるシステムになっています。

「健康トレーニング実習」の授業でテーピングを実践する学生

健康福祉学科
「健康トレーニング実習」

介護予防や健康づくりを指導する能力を養うことがこの授業の主なねらいです。上の写真は運動障害・外傷の再発予防を目的にしたテーピングの授業スナップです。日本オリンピック委員会の医・科学スタッフだった教員が直接手ほどきをしています。

これ以外にも、種々の生活習慣病を予防する有酸素性運動（エアロビクス）を実施する上で重要な指標となる最大酸素摂取量（VO_2max）の測定法や、転倒予防などを目的にした筋力アップ運動を安全で効果的に行うための指導法などを学びます。座学の授業とは異なり、授業時間を通して学生たちの元気な声や笑顔に満ちあふれています。

活躍する卒業生

二期生の亀山純子さん（平成10年卒）

Ⅰ．はじめに

—今できる最大限のことをする—、これが、この原稿を書くに当たってまず思い浮かんだ言葉です。学部生時代を振り返り、また現在も、このことは常に念頭にあります。

Ⅱ．精神保健福祉との出会いと臨床心理士養成大学院への進学

もともと私は臨床心理士になりたいと思っていました。そこで、高校卒業後、その夢の実現を目指してK大学へ進学しました。

K大学は、医療福祉領域の専門学科で構成されている大学でした。そこで、私にとっては他学科の科目となる精神保健福祉論を受講しました。これが私と精神保健福祉との最初の出会いです。

当初、私は心理学に傾倒しており、精神保健福祉論は、内容をよく理解できていませんでした。しかし、スティグマ（偏見）や、精神障害等を抱えた当事者の地域活動拠点である「べてるの家」などについて学び、徐々に精神保健福祉の世界に惹かれていきました。

そういえば、当時、K大学で北海道浦河町（「べてるの家」の所在地）へ研修に行く機会がありました。しかし、他学科の研修であることから日程の調整がとれず、私は参加を断念せざるを得ませんでした。このような悔しかった思い出もあります。

こうした経緯から、私は心理学と精神保健福祉の両方が学べる学科に移りたいと思うようになり、静岡福祉大学に編入しました。そしてここで学ぶうちに、私は精神障害や症状をもつ対象者を多角的に理解し、他職種との連携に重きを置くなど視野を広く持った支援を目差していきたいと思うようになりました。

山梨英和大学大学院のキャンパスにて

私は大学四年の三月に精神保健福祉士に合格しました。その後は、臨床心理士養成大学院への進学を目指し、山梨英和大学大学院人間文化研究科臨床心理学専攻へ進学しました。現在は修士課程の二年生です。

Ⅲ．大学院での勉強と実習

臨床心理士養成大学院では二年間の修士課程で学んでいきます。基本的に一年次で講義や演習等の授業の単位を取り、二年次は実習が中心になります。

山梨英和大学大学院での授業は基本的にディスカッションで行われ、臨床心理学の中の様々な学派について学び、知見を深めます。

大学院の授業では、学部の時には触れなかった犯罪心理学や、臨床心理査定演習（特に投映法）を筆頭に、より実践的かつ深い理論を学びます。私が特に役立ったと感じるのは、心理検査の方法と実践、精神分析的理論です。学部時代を思い返すと、「精神分析＝フロイト＝心理性的発達理論＝よくわからない」というのが、正直なところでした。しかし、精神分析の更に細分化された理論を学ぶうちに、理論は実践との両輪であることを知り、心理臨床に対する心構えも併せて学ぶことができました。

また、大学院で充実感の高い授業は、何といっても実習があげられます。修士一年の春から、段階を経て実習内容が濃くなります。まずは心理臨床を知るための事務実習、インテーク（カウンセリング前の面接）の陪席を経て、実際にクライエントにカウンセリングを行うケース担当、心理検査を行うテスト担当を経験します。また、将来独立することも考慮に入れた電話実習を行ったり、カンファレンスで自分のケースを発表することもあります。

ケース担当は実習の中核に当たり、2ケース以上を担当することが卒業要件です。つまり、大学院修了までにスーパーバイザー（指導や監督をする先生）のもとでカウンセリングの経験を積むことができるのです。日ごろ講義をして下さる先生がスーパーバイザーとして関わって下さったり、あるいは親子並行面接での担当者としてペアを組んだり、などの貴重な経験をすることができます。これは大学院ならではの経験だと思います。そしてスーパービジョンでは、どの先生も「目からウロコ」な知識や感性を持っていらっしゃるので、全てが勉強になります。

Ⅳ．大学院修了後の夢

大学院修了後は、精神病理の深浅にとらわれず、臨床心理士として柔軟に動ける環境で仕事をしていきたいと思っています。

心理臨床における適応の考え方はいろいろあります。何をもってクライエントが適応しているとみるか、その判断は多角的にみるべきであり難しいものです。私は、精神保健福祉士の知識も併せ持った臨床心理士として、—今できる最大限のことをする— ような仕事をしていきたいと思っています。

紙芝居と私

福祉心理学科4年　左原いぶき

紙芝居が絵本の読み聞かせと違うのは、紙芝居が、最初から読み聞かせることだけを目的につくられたものである、ということである。紙芝居そのものが直接、読者に触れることはほとんどない。そこには大抵、読み手が介在している。逆に、紙芝居と読み手だけが存在するというのは、普通の練習風景だが、伝えるべき対象のない物語に意味はない。

文章、絵、読み手、聴衆。これらが揃って初めて、紙芝居は成立する。

読み手は、文章や絵と同様に、作品を構成する一部だ。作者の想いを聞いている人に伝えるのは紙芝居を読む者の義務だと、私は思っているが、同時に、自分の解釈を加える権利もある。

読むべき文章は決まっている。しかし、どう演じるかは自由だ。「抜き」のスピードも、演じている間の目線も、すべて自由だ。その人の演じる紙芝居は、その人だけのものだ。その人の作品だ。そこに、やりがいがある。

今、私が練習しているのは、小泉八雲原作の「鬼火」だが、読むたびに作中の壇ノ浦の海と、八雲の住んだ焼津の海を重ねてしまう。

舞台に立ち、紙芝居を読むとき、私がいつも考えることがある。今を逃したら、ここにいる人たちに私が紙芝居を読むことはおそらく二度とないだろう、ということだ。だから、私は彼らと真剣に向き合う。手加減はしない。すると、彼らも真剣な眼差しで応えてくれる。

紙芝居を始めたのは偶然だった。ただ、物語は好きだった。紙芝居を通して、自分が物語を伝える一部になれる。それが、私にとっての喜びだ。

医療福祉学科4年　大塚　早希

私が初めて人前で紙芝居を読んだ作品は、「津波だ！いなむらの火をけすな」と「防災赤頭巾ちゃん」です。

「津波だ！いなむらの火をけすな」は、焼津の浜言葉を遺す会会長の長谷川寅吉さんに監修で浜言葉版にしていただきました。焼津で昔から使われている浜言葉は、藤枝市出身の私には聞き慣れている言葉も多く、親しみやすいものでしたが、台詞として文字で書かれているものに慣れるには、練習を重ねることが必要でした。

2作品とも地震の後に大きな津波が来る話で、過去に起こった災害と東日本大震災での教訓を、登場人物を通してわかりやすく学ぶことができます。

紙芝居は、紙に書かれた絵を読み手が一枚一枚めくっていくことで場面が変わっていきます。テレビやパソコンのように情報量が多いものではありませんが、一枚の絵と話から「登場人物はどんなことを考えているのか」「絵は何を表しているのか」など想像する楽しさがあります。

また、同じ作品でも読み手によって印象が変化することも魅力の一つです。声の大きさ・高さ、抑揚のつけ方、解釈の違いでとても怖い話になったり、面白い話になったり十人十色に変化するおもしろさがあります。

今は7月の実演会に向けて、小泉八雲原作の「だんごをなくしたおばあさん」と「猫を描く少年」の練習をしています。小泉八雲の作品は怪談話が有名ですが、「だんごをなくしたおばあさん」は笑うことが大好きなおばあさんと鬼が登場する楽しいお話です。「猫を描く少年」は少し怖い不思議なお話です。紙芝居を通し、作品の世界を考えることで、小泉八雲の作品を身近に感じることができるようになりました。実演会では、焼津と関わりが深い小泉八雲の作品を楽しんでもらえるよう、丁寧に演じたいと思います。

医療福祉学科2年　平井颯一郎

紙芝居は、聞いている方々を楽しませるものです。昭和の頃にあった街頭紙芝居等はその一例です。しかし、紙芝居はそれ以外に、昔の出来事を基に紙芝居を作成して後世に伝えるものもあります。その一つが教育紙芝居です。

教育紙芝居の中に、小泉八雲が紀州広村の庄屋・濱口梧陵をモデルに「生き神様」を書いた話があります。この話を書いた中井常蔵が防災教材として書いた「稲むらの火」です。

「稲むらの火」は、濱口梧陵が、村人達に津波襲来を知らせるために、刈り取ったばかりの稲むらに火をつけました。丘の上で火事が起こっていると思った村人は、火を消しに高台に行きましたが、梧陵はそこで津波襲来を知らせます。

私は「稲むらの火」という作品を通じて、津波の恐ろしさを学びました。この津波によって村は壊滅的な被害を受けたからです。しかし、濱口梧陵のお陰で多くの村人の命を救う事ができました。

この作品は現在、私が練習している作品です。この作品を聞いてくれる方々に津波の恐ろしさが伝わる様に精一杯読んでいきたいです。

私はこれからも紙芝居で皆さんを楽しませるだけでなく、過去に起きた出来事を伝えていきたいと思います。

国際ソロプチミスト「女性に機会を与える賞」
日本連盟一位受賞、アメリカ大会一位受賞

福祉心理学科３年　**五十棲江里**

私には三人の息子がいます。

長男、中学三年生。ＬＤがあり、地元中学の特別支援学級に在籍しています。

二男、中学一年生。二歳半の時、インフルエンザ脳症を発症し、その後遺障害から寝たきりになりました。発症から10年になろうとしていますが、現在は、鼻からチューブを入れ、必要な栄養をとっています。特別支援学校、中学部に通っています。

三男、小学5年生。兄二人の障害を理解しようと、手伝ってくれたり、フォローしようと頑張ってくれ、頼もしく私を支えてくれています。

平成14年2月、二男はインフルエンザ脳症を発症。その後、脳梗塞・くも膜下出血を併発し、重度の障害をもつことになりました。歩くことも、話すことも、笑うことも、そして、「かぁか」と呼んでくれることもなくなったのです。

失意のどん底の中で、私に光を注いでくれたのは、変わり果てた弟に優しく声をかける長男（当時4歳）と無邪気に笑う三男（当時、生後5ヵ月）でした。

私の守るべきは、二男だけではないのだと、泣いてばかりはいられない。今できることをしっかりやろう、主治医の先生がおっしゃったように、簡単ではないけれど、もう一度、初めから育てなおそう、と前向きに生きるきっかけとなりました。

障害児を抱えながらの毎日は、本当にめまぐるしく、1日1日がめいっぱいでした。しかし、今振り返ってみると、10年という月日は幸せで、とても充実した日々でした。

現在でも、首のすわりはいまいちですが、寝返りをしてくれたこと、泣いてくれたこと、笑ってくれたこと、この子は気持ちを表現する術がないだけで、きっと、何もかもわかっているんだと感じられ、本当に小さな些細な変化が、愛おしく、温かく幸せな気持ちになりました。そして、障害があることは不幸な事ではなく、少し不自由なだけなのだ、と思えるようになりました。

次男を通じて、生きること、命とは、の意味を教えてもらったように思います。

以前のような、障害児・者への偏見は時代と共に大きな変化を遂げたように思います。現在ある、教育施設は父兄の声から成り立ってきているが、制度や行政の区切りの中で、決して子供たちにとって居心地のよい空間とは思えません。障害児・者が地域の中で生活をしていくには、まだまだ理解が必要だと思いました。

また、わが子が特別支援学校高等部を卒業する頃には、現在ある施設では、対応できないという現状から5年後・10年後の未来に、障害を持つ子供たちが幸せに、生きがいをもって過ごせる居場所ができたらと思い、「ポポの木」を立ち上げ、フリーマーケットや会費などを集め、施設づくりに向けて取り組みました。数多いハードルの中で、親として、施設の中でどう自分がかかわっていくのかを考えたとき、やはり、専門知識が必要だと思い、静岡福祉大学に入学しました。

障害を持つ子供たちの代弁者として、また、家族の苦しみを知るよき理解者となれるよう、この大学で多くの事を学び、私のライフワークとしていきたいと考えています。

今回、この私たちに賛同し、見守り続けてくださった国際ソロプチミストから、より良い職を目指す人が対象の「女性に機会を与える賞」日本連盟一位を頂き、さらに今回、アメリカ大会でも一位を頂くことができました。

障害を持つ子供を抱えながらの細々とした活動に、地域の方々の温かな見守りと、支えを頂くことで、このような賞につながり、私の学生生活の大きな糧となりました。

障害の子を抱えながら、家事・リハビリと二人三脚でやっては来ましたが、少しずつ子供への思いがズレをうみ、離婚という選択をしました。昼は学生、夜はバイト、の生活で、くたくたになっていると、子供たちを犠牲にしてまで続ける必要があるのか、と心も悲鳴をあげる時がありますが、帰宅すると子供たちがつくったいびつなおにぎりがおいてあることがあります。手紙には、「おつかれさま」の言葉も添えてあります。子供たちも寂しい思いをしていると思うと涙が出ることもありますが、「凌ちゃんの為に頑張るんでしょ」という小さな応援団の言葉と、地域の人たちに支えられての学生生活に、私は応えなくてはならないと、気持ちを新たに努力していきたいと思います。